教員名	中村　美奈子　(NAKAMURA　Minako)
所　属	文教育学部芸術・表現行動学科舞踊教育学講座
学　位	芸術学士　(東京藝術大学)、人文科学修士　(お茶の水女子大学)
職　名	助教授
URL　／　E-mail	http://buyou1.li.ocha.ac.jp/Nakamura/index.html　／ http://www.li.ocha.ac.jp/geijutsu/buyou/　／ nakamura.minako@ocha.ac.jp

◆研究キーワード

民族舞踊研究　／　舞踊記譜法 Labanotation　／　舞踊動作分析　／
ダンスとコンピュータ　／　インドネシア　(バリ島)

◆主要業績　　総数　(　4　)件

・池田宏子、小島一成、中村美奈子,
「岩崎鬼剣舞の「ザイ」の動作特性ーモーションキャプチャによる動作計測と舞踊の指導言語の分析を通してー」,
『情報処理学会研究報告』2006-CH-71　(7), 情報処理学会, 2006, pp47-54
・池田宏子、小島一成、中村美奈子,
「岩崎鬼剣舞の「采（ザイ）を切る」動作に関する研究ー「わざ」の質的分析と数量的分析ー」,
『情報処理学会研究報告』2006-CH-72　(2), 情報処理学会, 2006, pp7-14.
・Minako NAKAMURA, Kazuya KOJIMA: "A study on motion characteristics of the hands, the fingers, and the face in Balinese dance", International Symposium: Kyoto Body Motion Analysis with Motion Capture, Ritsumeikan University,2006,pp95-97

◆研究内容

インドネシア・バリ島の舞踊を研究対象とし、その舞踊の技法、表現特性、舞踊構造の分析を行っている。2006 年度は、萌芽研究「舞踊の電子テキスト研究ー文理融合型の民族舞踊研究の視点から」の代表者として、舞踊研究にコンピュータテクノロジーを方法論として用いるとどのような研究が可能になるかということをテーマに、民俗芸能やアジアの民族舞踊のモーションキャプチャ　(以下 MC と略）によるデータ分析を中心に行った。岩手県の民俗舞踊、岩崎鬼剣舞の庭元　(家元）と初心者のデータの比較検討により「ザイを切る」という舞踊の「わざ」について質的および定量的分析を行い、情報処理学会の人文科学とコンピュータ研究会において 2 度の研究発表を行った（指導院生を含む共著)。また、2006 年 10 月より中国の新疆芸術学院舞踊講師を中国政府派遣研究員として受け入れ、ウイグル舞踊の MC 分析を行った。分析結果については、来年度以降に学会などにおいて発表していく。立命館大学 COE 客員研究員（最終年度）として、バリ舞踊の手指動作の MC 分析結果の成果報告を行った。

◆教育内容

舞踊教育学コース所属の学生らは、そのほとんどが、バレエやモダンダンスなど西洋の芸術舞踊を実践してきている人たちである。筆者の教育目標は、さまざまな身体表現、舞踊表現が世界には存在すること、また、舞踊は、その社会文化的背景と深く結びついた表現様式をもっていること、そして、舞踊は芸術的なものだけではなく、民俗芸能のように社会的な機能をも果たしていること等を理解してもらうことである。2006 年度は、筆者によるバリ舞踊の授業だけでなく、韓国人の音楽家（伽耶琴の人間国宝後継者）と舞踊家、ウイグル舞踊の舞踊家による実演とワークショップを「舞踊論」の授業で行った。舞踊の理解には、ビデオ映像だけではく、生の舞踊に接する機会を持つことも重要であるので、今後も可能な限りこのような機会を設けていきたい。また、一般体育　(スポーツ健康科目）では、2006 年度よりパワーヨガの実技を担当し、学生らの集中力の養成と心身の調整に力を注いだ。大学院（民族舞踊学特論）では、「神憑り」をテーマに授業を行った。

◆Research Pursuits

I am studying the dance technique and structure of Balinese (Indonesian) dance.

In 2006, I took part in the COE research project in Ritsumeikan University as a COE guest researcher and read my paper on finger motions of Balinese dance at the International Symposium: Kyoto Body Motion Analysis with Motion Capture held in Kyoto.

And also, I read my paper on "Motion Characteristics of "Shaking Zai" of Iwasaki Onikenbai Dance performed in Iwate Prefecture, Japan (written in collaboration with my graduate student) at the IPSJ SIG Computers and the Humanities Symposium by Grant-in-Aid for Scientific Research.

◆Educational Pursuits

Most of the students in our dance education course only know Western dances such as Ballet or Modern dance. I am teaching those students that there are many more kinds of dances which have their own cultural background and that some of them do not appear artistic but perform a social function.

In 2006, in addition to those lectures and practices, I gave a special lecture on Korean dance and music with live performances by a Korean musician who is a living national treasure.

To the graduate students I gave a lecture on "Trans and Possession"from the point of view of Ethnochoreology (Dance Ethnology)

◆共同研究可能テーマ

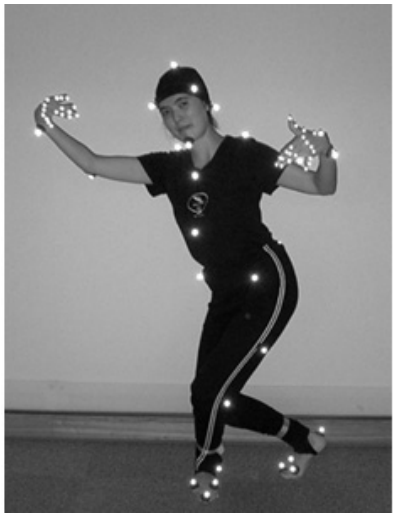
・芸術舞踊公演のためのメディア開発
・モーションキャプチャを用いた民族舞踊の動作分析
・アジア地域の舞踊の伝承と教育について（比較研究）

◆将来の研究計画・研究の展望

文化人類学から情報学までさまざまな領域の研究者らとの学際研究を通じて、舞踊および身体表現に関する研究を行ってきた。今後も幅広く身体文化、身体表現、身体運動の解明にかかわる研究をしていきたいと考えている。また、無形文化財のデータベース（アーカイヴ）化、特に舞踊や身体表現に関するデータのアーカイヴ化についての研究は事例が少なくメタデータの整理も進んでいないことがプロジェクト研究を通して分かってきたので、これらの点についても検討を行っていきたい。

◆研究の実用化 （今後実用化したいテーマ）

舞踊記譜法 Labanotation の XML 表現の開発。これにより、楽譜 (Music XML）のように舞踊の譜面情報がテキストベースで Web 上で交換できるようになる。

◆受験生等へのメッセージ

舞踊は、その社会文化的背景と深く結びついた多様な表現様式があること、そして、舞踊は芸術的なものだけではなく、民俗芸能のように社会的な機能持つものもあることを是非みなさんにも知ってもらいたいと思っています。同時に、バリ島の舞踊は見ていると緩やかで楽しそうですが、実は中腰の姿勢で踊るのはいかにきついかということを是非実技授業で体験してください。そんな「伝統的」な舞踊の研究をしている私ですが、実は大変な新しいもの好きで、共同研究のほうでは、1998 年頃からずっとモーションキャプチャという装置で舞踊の計測をしてきています。舞踊とデジタル技術がどうつながるのだろうと不思議に思われる人もいるかもしれませんが、科学技術は常に進歩しながら人文学にすり寄ってきているのではないかというのが今の私の実感です。共通の関心として「人間とは何か」という問いかけがあるように思います。